ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
EU41C407	病気の子どもの支援と実践研究(Seminar in Psychology, Practice, and Research for Sick Children)	高度専門科目	

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1	教育学研究科	後期		氏名　古長治基 E-mail　h-kocho@oita-u.ac.jp　内線　6147

授業の概要

本科目はさまざまな病気のもつ子どもの支援、教育における実践上の課題、支援研究の方法について学ぶ演習科目となる。本授業で取り上げる内容として、特に、近年の病気の子どもの支援における重要なテーマである医療との連携、医療的ケア、学校現場で実践研究を行っていく上で必要となる、アセスメントの基礎となる考え方、子どもの心理的体験を理解するための手法、実践研究の計画の仕方や考え方、必要となる配慮や近年の課題などが含まれる。病気の子どもを対象として、どのような取り組みが必要となるかを、事例等を通じて議論し、参加者が自ら視点を設定し、課題を明らかにするための演習、発表を取り入れる。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	病気の子どもの支援実践において、医療との連携や評価に関する課題を発見し、説明することができる				○	○						
目標2	病気の子どもに関わる実践研究について、自ら課題を立案し、計画することができる。				○	○						
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												

授業の内容

1	病弱領域における近年の課題
2	医療との連携における課題
3	精神科疾患における医療
4	身体障害、健康障害、精神疾患、行動障害の理解に関する枠組み
5	子どもの状況を評価するための視点と方法
6	心理的発達のアセスメント：体験の理解
7	子どもの主観的世界を理解する：遊び
8	子どもの主観的世界を理解する：表現
9	教育、支援の改善と評価
10	支援の実践と研究をつなげる：計画
11	支援の実践と研究をつなげる：評価
12	支援の実践と研究をつなげる：考察と改善
13	病気の子どもの教育における実践研究のあり方
14	倫理的課題
15	病気の子どもの支援と実践研究

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	各回で、参加者の疑問、事例研究などを元にディスカッションの機会を設ける。プレゼンテーション、レポートにより課題に関連した文献の収集、購読、発表が必要となる。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する。発表について、関連事項の調査や発表準備等が必要となる。（15h）
事後学修	関連する資料の調査、講読を行う等（15h）

教科書	なし。適宜資料を配付する。
参考書	・特別支援学校学習指導要領、平成２９年４月公示、文部科学省 ・特別支援学校学習指導要領解説、平成３０年３月、文部科学省 その他、適宜紹介する。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
レポート	30%	○	○								
発表	40%	○	○								
議論への貢献	30%	○	○								

注意事項	なし。
備考	発表、議論には参加者の積極的な参加を求める。
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	公認心理師
実務経験をいかした教育内容	支援の実践における事例的理解を含める